

令和7年度 三和幼稚園・みなみ保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	・環境設定のテーマに絞り、年間通して園内研修を進めたことで、職員一人一人が人的・室内環境について意識しながら保育を行うようになりました。その結果、保育に対する専門性や資質の向上が図られ、こどもの発達につながりました。 ・継続的にこどもの発達を掴み、個々にあった遊びや声のかけ方を積み上げてきたことで、こどもがそれぞれ自己表現ができるようになりました。	・研修で関わり方や安心して遊べる環境を学び、こども自身が主体的に関わり、遊びや生活する力につなげます。 ・個々のこどもを理解し年齢にとらわれず、発達に見通しを持った遊びや生活を積み上げられるよう職員同士の連携を深めます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	・全体月案や年齢別月案で子どもの姿だけでなく教材や個々の発達について話し合い、教育目標に向けて取り組みました。 ・こども一人一人の遊びや発達に寄り添った環境設定を職員間で考え合い、視覚支援や手作り玩具を増やし、豊かな環境づくりに努めたことで、こどもの遊びや発達の充実につながりました。	・月案だけではなく行事のあるときは、週案を話し合う時間を持ち職員間の連携につなげ、発達に見通しを持った保育内容となるように努めます。 ・個々の職員が年齢や発達に合った環境設定や玩具などを考え、保育者自身が園全体に広め合えるような、職場環境づくりをします。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	・CLMや町教研、年齢別部会では自分の保育を客観的に見て、意見交流をすることで振り返りができ、こどもへのかかわりや保育内容に活かすことができました。 ・環境を見合う研修やわらべ歌の年間計画を立てることで保育者自身が学び、実践することで、こども達が意欲的に遊ぶ姿につながりました。	・研修に参加するだけでなく、自分が学んだことを実践し、全体月案などでこどもの姿や学んだことに対する変化を報告し園全体で共有します。 ・ふらっと研修の内容や計画を再考し、園内で相互に保育観察に行ける体制を整えます。環境設定だけでなく、手作り玩具や教材、わらべ歌などの研修を進め、職員間で保育の専門性を向上し、こどもの発達につなげます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	・毎月の避難訓練で、あらゆる災害を想定したものを行いました。地域の施設と連携をして避難訓練を行ったり、今年度は小学校の2次避難場所に避難し危機管理の意識を高めることができました。 ・全体月案ではヒヤリハットを確認し、園全体で事故や怪我、誤飲、誤食について対策を話し合い、防止方法を考え職員全員で取り組みました。	・あらゆる場面で、臨機応変に対応できるようにするために、防犯カメラを活かした不審者対応や、映像通報システムを活用した訓練、散歩先での災害を想定した避難訓練を行います。 ・アレルギー誤食対応訓練や熱性けいれんの危機管理対応マニュアルを見直し、園内で研修を計画して、どの職員も対応できるようにします。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	4	・園内では異年齢の関わりを増やし、小学校と交流する機会を計画的に持つことで、連続した学びにつながりました。小学校の職員と交流を行うことで、連携や意見交流がスムーズに行えました。 ・たよりで20のポイントや3感をこどもの姿につなげて発信しました。メディアについてたよりや職員劇で発信し、保護者とこどもが考える場を設けることで、メディア時間の減少につながりました。	・今年度行った交流の成果を明確にし、園の強みとして継続します。職員の交流会ではCLMで取り組んだ遊びなどを共有します。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	・送迎時や個別懇談、連絡帳、キッズビューを通して、こどもの姿を伝えました。保護者の不安や困り感があるときは、その都度声をかけて面談の時間を設けました。 ・保護者面談や一時保育では育児不安や育児軽減に対する相談がありました。面談時や送迎時に話を聞き必要な時は、各関係機関と情報共有し支援体制を築くようにしました。	・保育者から声をかける機会を多く持ち、保護者から相談しやすい関係づくりに努めます。 ・保護者面談やR8年度開始の誰でも通園制度、一時保育を利用された保護者に寄り添い、必要に応じて各関係機関と連携を取り保護者支援につなげます。